

C-DiGit®の不具合およびデータのお問い合わせにあたって (Image Studio ユーザー用)

Rev.20231226

ご使用いただいている C-DiGit について、「装置の調子が悪い」「以前まで撮影できていたのに急に撮影できなくなった」「画像がおかしい」などの疑問が生じた場合には、下記に従って弊社までお問い合わせいただけますようお願いいたします。

- 装置自体の問題なのか、ご実験上あるいは試薬の問題なのかを知ることが大切です。装置に問題がないことを確認するためには、ターゲットシートの撮影を行います。撮影したデータを Image Studio Zip File として保存して弊社までお送りください。
- 弊社で状況を正確に確認させていただくにあたって、実際の実験で撮影したプロット画像を拝見させていただく必要がございます。プロット画像は画面キャプチャーやエクスポート画像ではなく Image Studio Zip File として保存してお送りください。
- どのような問題が生じているのかを正確かつ、できる限り詳細にご記載ください。例えば下記のような内容をご記載いただくとスムーズに対応させていただきます。
 - － 生じている問題の詳細（例：以前まで上手く撮影できていた実験でシグナルが検出できない／HKP ののに検出できない／バンドの周りにハロが出る／バンドがぼやける／バンドの中が白く抜けている／プロット全体が黒くつぶれている）
 - － 使用されている試薬や抗体（特に基質（検出試薬）のメーカー名と製品名）
 - － 実験試薬や抗体は新しく購入したものを使用している or 古いものを使用している。
 - － 実験試薬や抗体の使用期限を確認済である or 確認していない。
 - － 新たに作成したプロット、1 回撮影したものに再び基質をかけて撮影した、ストリッピングとリプロービングを行った・・・など
 - － 実験条件（タンパク質ロード量、転写条件、ブロッキング条件、一次抗体反応条件、二次抗体反応条件、洗浄条件、基質との反応条件など）は依然と全く同じ or 変更した。
 - － SDS-PAGE の前にタンパク質濃度を定量している／していない。
 - － 基質（検出試薬）との反応方法。

データは下のメールアドレスまでお送りください。

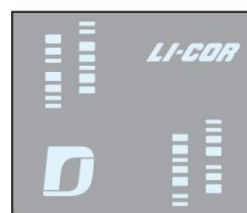
licor@scrum-net.co.jp

ターゲットシートの撮影方法



← ターゲットシートはこれです

1. 付属のターゲットシート（動作確認用のシート）をスキャンします。ターゲットシートは蛍光で光るようになっています。文字が書いていない面（銀色の面）を蛍光灯に30秒以上かざしてください。



Expose this side

1. Expose to room light for 30 seconds



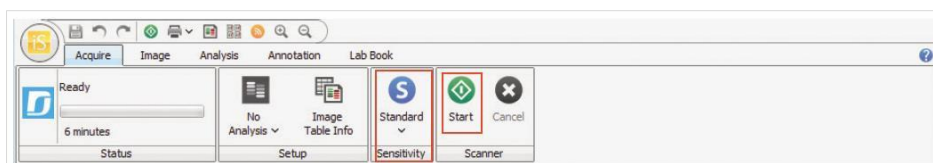
2. Place exposed side down



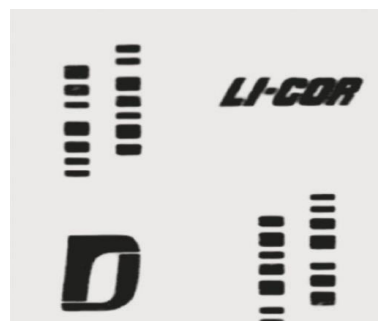
2. ターゲットシートの文字が書いていない面（銀色の面）を下にして装置のスキャンエリアにおいてください。



3. ソフトウェアで Standardモードを選択し Startボタンを押します。



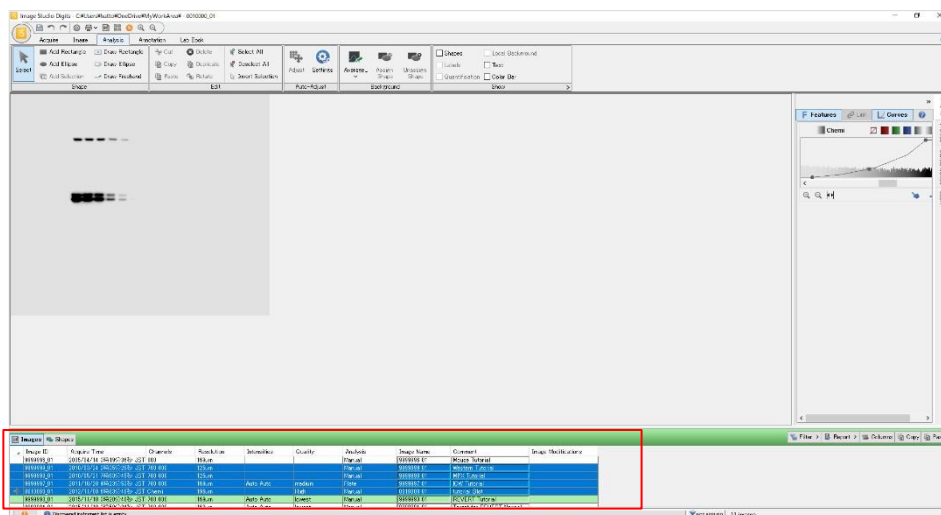
4. 右のような画像が撮れれば装置の動作は良好です。



撮影データをImage Studio Zip ファイルとして保存する

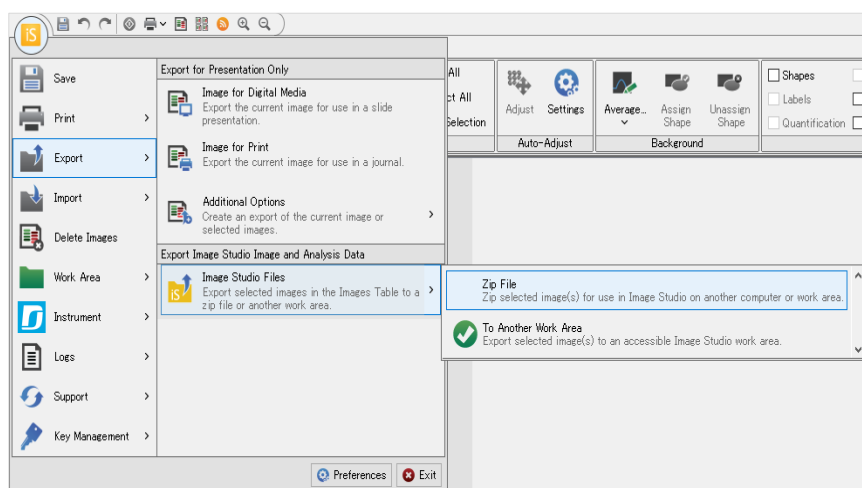
撮影したデータ（画像）を弊社にお送りいただく際は、Image Studio Zip ファイルとしてエクスポートしてください。

1. ソフトウェア画面の Image タブでエクスポートする画像を選択してください。ShiftキーやCtrlキーを使用すると、複数の画像を同時に選択することができます。



複数画像をお送りいただく場合は、Image ID 欄あるいは Comment 欄を利用して、どれが何の画像なのかのわかりやすくしていただけると助かります。

2. ソフトウェア画面左上のISマーク（黄色）から [Export] - [Image Studio Files] - [Zip File] の順に選択し、名前を付けて保存してください。



お問合せ先



本社

〒135-0014 東京都江東区石島2-14 Imas Riverside 4F

Tel. (03)6458-6696 Fax. (03)6458-6697

西日本営業所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原5-1-3 NLC新大阪アースビル403

Tel. (06)6394-1300 Fax. (06)6394-8851

Web Site www.scrum-net.co.jp